

No.	指摘箇所ページ数	章-項	ご意見・ご提案の内容(一部抜粋)	ご意見に対する市の考え方
1			計画の策定段階で、県のマスタープランとの整合は図られているのか。	熊本県では現在いわゆるマスタープランの策定を行っておらず、知事のマニフェストを基にした4ヵ年戦略が作られている。当然ながら4ヵ年戦略との整合も図っており、その確認も含めたところで県への意見照会も行っているところである。また、それぞれの分野における上位計画との整合性についても、素案作成の段階で各部署にて確認を行いながら進めてきたところである。
2	26	1-3-1	校区福祉推進協議会の中で「ふれあい委員」というものを任命し、民生委員さんたちの活動助成などを行っているが、活動があまり知られていない。可能であれば、文言として計画の中に追加記載できないか。	(意見聴取のみ。その場での回答は行っていない。) ご指摘の「ふれあい委員」については、社会福祉協議会にて校区福祉推進協議会が組織され、その中で具体的な活動が行われているところである。総合計画においては、地域福祉の推進に関して、地域福祉計画に基づいて関係機関と協働を図る旨を記載しているが、前述の社会福祉協議会との連携についてもここに包含されている。なお、ふれあい委員活動については、地域福祉に関する個別計画である「地域福祉計画」にて記載されているところである。
3	109	5-1-1	自然環境の保全の中で、希少動植物などについて触れてあるが、現実問題としてはシカやイノシシなどにより自然環境が荒らされており、そういったことに全く触れていない。	(意見聴取のみ。その場での回答は行っていない。) いわゆる鳥獣被害対策については、第3部第4章の第2項「緑を育てる林業経営の安定」の中で記載を行っている。指摘の件については、たしかに自然環境の保全にも密接に関連する内容ではあるが、重複した記載を避ける趣旨から、特に「森林の保全育成」にて取り上げているところである。
4			「やすらぎと活力にみちた魅力かがやく元気都市やつしろ」という将来像について、「やすらぎ」「みちた」などひらがなで表記されている。誰でも読めるようにという配慮だろうが、教育の観点から漢字表記に変更すべき。また、第3部第2章第1節にも「八代の未来を担うひとづくり」との表記があるが、「ひと」についても「人」と漢字表記すべきである。	(意見聴取のみ。その場での詳細な回答は行っていない。) 指摘の表記については、平成20年度の基本構想時に策定されたものであり、その際には地域ごとのワークショップなど多くの市民を意見を取り入れて決定されている。また、今回同様策定審議会や地域審議会の意見も踏まえて10ヵ年の議会議決を経ているところでもあることから、今回の後期基本計画では現状のままの表現で統一させていただきたい。
5	45	2-2-1	生涯学習の推進体制について、生涯学習の推進には社会教育主事の育成など、人的な要素も重要だと考える。指標にも箱物的な評価しか記載されていないため、もう少し人材を評価することが大事だと思う。行政だけでなく、市全体の人材育成をどうしていくかが大きな課題である。	(意見聴取のみ。その場での回答は行っていない。) 指摘のとおり、生涯学習の推進には人的な要素も不可欠であり、生涯学習社会構築の推進役となる社会教育主事の育成にも力を入れていくこととしている。指標については、今回整理を行う中で、できるだけ定量的な把握を行えるようにとの検討を行った結果であり、なかなか人材の評価といったような定性的な評価までは踏み込めていないところである。指標の設定手法については、今回の後期計画の検証を行う中でも色々な課題を整理し、今後の見直しの中で改善策を検討していきたい。
6	90	4-1-1	「農村環境の整備」の中で、「集落単位での保全活動に取り組みます」との文言があるが、集落全体の高齢化が進み担い手も少なくなっている状況の中、どうやって農村環境の整備を図っていくのか。ここは集落に限定せず、「地域」や「みんな」といった大きな単位での取組みとすべきではないか。	(意見聴取のみ。その場での回答は行っていない。) 指摘の点に関する主な取組みとしては「農地・水・環境保全向上対策事業」があるが、この事業は高齢化、混在化が進む農村集落のなかで、農家・非農家の皆さんによる共同活動で排水路や農道の草刈りを実施し、農村環境を維持していくという趣旨である。本文にはその取組みの最小単位として「集落」が挙げられているが、地域によってはより広い単位で取組みが行われているところもある。よって、指摘の点については現状の記載内容に包含されていると考える。